

# ‘F’ と ‘Woman’ の発音を学生にどう教えるか

How to Teach Students the Pronunciation of ‘F’ and ‘Woman’

井 上 久 夫 \*

## Abstract

I have taught ‘English for Teaching Children I’ at Kwansei Gakuin University’s School of Education since 2009, the total number of students being about 630.

Every year at the beginning of the first class session, I ask about seventy students taking the subject three questions concerning pronunciation—1. The movement of a person’s mouth 2. The pronunciation of ‘F’ 3. The pronunciation of ‘Woman.’ I give them the time they need to answer the questions. When I answer, almost all the students respond to my answer with a surprised look and loud laughter. Their response indicates that they have been under an illusion as to the three things concerning pronunciation. At the same time and from another point of view, it proves that they were not taught these things in detail in their high school days. Or I wonder if the high school teachers had not noticed that they themselves had been under an illusion with regard to these three things.

The aim of this paper is to get students who aspire to become high school teachers to notice their illusion and be free from it.

キーワード：口の動き、‘F’ の発音、‘Woman’ の発音

## はじめに

2009年4月から、関西学院大学教育学部において、「子どもと英語Ⅰ」という科目を担当している。1年生対象の春学期開講科目で、一クラスの受講人数が約35名である。二クラスを担当しているので、これまで約630名の学生を教えてきたことになる。

9年間、毎年、「子どもと英語Ⅰ」の初回の授業で、約70名の新入生に対して発音に関わる三つの事項—1. 口の動き 2. ‘F’の発音 3. ‘Woman’の発音—について質問し、その後、学生の様子を観察し、机間巡視を行い、ヒントを与えた上で、口頭と板書で答えを示した。<sup>1)</sup>ところが、興味深いことに、その答えに対して、毎年、ほぼ全員が「驚きの表情」と「笑い声」で応答したのである。この応答は、まさに、学生が三つの事項について思い違いをしていたことの証である。

だが、別の視点から眺めれば、この応答は、学生たちが中等教育の場において、三つの事項を丁寧に教わってこなかったことの証でもある。多忙を極め

る日本の中学校教諭や高等学校教諭は、おそらく、時間を十分に取れなかったために、それらを生徒に教えることができなかったに違いない。あるいは、もしかすると、教諭自身もそれらについて思い違いをしていて、そのことに気づかないまま教えていたのかもしれない。いずれにせよ、そのために、学生たちは大学入学時までそれらを勘違いしていたのである。

そのようなわけで、この小論文を書く目的は、筆者が担当したことのないクラスの学生、特に、中等教育および初等教育<sup>2)</sup>に携わろうとする学生に、発音に関わる三つの事項について間違った思い込みをしていたことに気づかせ、そこから彼らを解放することにある。そのために、筆者が担当した約630名の学生がどのような思い違いをしていたのか、また、そこからどのように解放されていったのかを具体例を挙げて示す。

\* Hisao INOUE 関西学院大学教育学部教授

## I

「口を大きく開いてください。…閉じてください。はい、結構です。それではもう一度、口を大きく開いてください。…閉じてください。はい、結構です。よくぞ恥を忍んで大きな口を開けてくれました。ありがとう。」

ところで、閉じた状態から大きく開いた状態になるまで、口はどのような動きをしているのでしょうか。まず、皆さん自身で考えてみてください。その後で、横から見た顔をノートに描いてみてください。口を閉じた状態、大きく開いた状態、その二つの絵を描いてください。」

机間巡視をしながら学生たちが描いた絵を見ても、口の描き方に関してはほぼ同様であった。それで、一例として次の絵を黒板に描いた。その後、板書した絵と各自が描いた絵が、ほぼ同じであるかどうかを尋ねた。学生たちは頷いた。

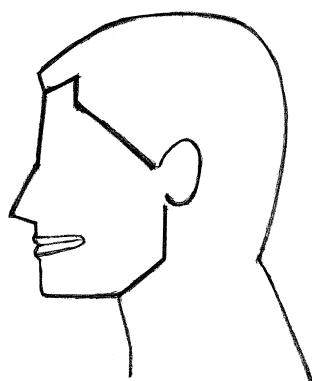


図1 口を閉じた状態

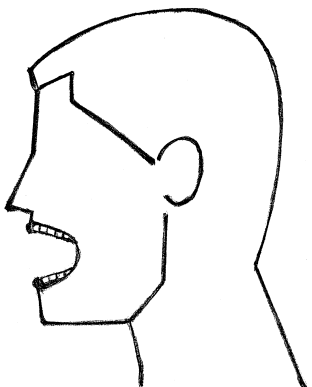


図2 口を大きく開いた状態

そこで、次の話をした。この話をヒントに、図2の絵が間違っていることに気づいてほしいと願ったからである。

「僕が、もし、この絵のように、口を開けることができれば、世界中が僕に注目することになるでしょうね。間違いなく。」

学生たちは、最初、「きょとん」とした表情だったが、やがて、積極的な学生は両手で自分の口や顎に触れて、その動きを確かめた。頃を見計らって、筆者が「口の動きに対する間違っただけの思い込みに気づいた人があるようですね。それでは、全員、掌や指を用いて、口の動きを確かめてみてください」と言うと、口の動きを繰り返し確かめ、実際は、自分たちがこれまで想像していた口の動きとは異なることに気づき始めた。

学生たちは、子どもの頃から「口を大きく開けて」といわれると、自分自身では、図2のように「口を上下に開けている」と思い込んでいたのである。実際は、「下顎が下がっていただけ」<sup>3)</sup>なのである。「口は上には開かない」のである。

## II

「皆さんは、中学1年生のときに、英語の授業で、'F'の発音の仕方を習ったのではないのでしょうか。どんな風に'F'の発音の仕方を教わりましたか。教わったとき、先生はどのように説明されましたか、思い出してみてください。もし、思い出するのが難しいのであれば、自分なら中学1年生にどのように教えるか、考えてみてください。そして、それをノートに書いてください。その後で、隣の席の人が書いたものと比べてください。また、それぞれがノートに書いた説明文の通りに行えば'F'の発音ができるのかどうか、話し合ってみてください。」

学生たちは指示にしたがってノートに書き、隣の学生と比べ、話し合っていた。学生が書いた文言は、ほぼ次の三つにまとめることができたので、それらを例として板書した。

'F'の音を出すためには、

・「上の歯を下唇に（そっと）当て、息を（強く）」

吐く」

・「上の歯で下唇に（軽く）触れ、息を（強く）

吐く」

・「上の歯で下唇を（軽く）噛み、息を（強く）出す」

その後、次のように言った。

「表現上の僅かな差異は別にして、皆さんが教わったのは、あるいは、中学生に教えるときに用いるとすれば、板書した表現で、問題はありませんか。これでいいですか。」

学生達が頷くのを確認した後、次のように話した。

「F」の音を出すための説明として、これらの表現は間違っていないように思われます。僕の場合、中学1年生の4月の授業で、‘F’の発音を習いました。そのときは、「上の歯で下唇を噛んで、息を出す」と教わりました。そして、長年、何の疑いも持たずに、この言い方に近い表現で英語の‘F’の発音を教えてきました。でも、本当にこの言い方でいいのでしょうか。間違いないのでしょうか。

2008年4月だったと記憶しています。朝早く、NHK ラジオ第2から「基礎英語1」という番組が流れてきました。床の中でうとうとしながら聞いていますと、講師の先生が、「上の歯を下唇にそっと当て、息を出すと‘F’の音を出すことができます」と言ったので、その指示どおりに上の歯を動かそうとしました。しかし、できませんでした。…よく考えてみればそんなことはできないのです。人には「上の歯を下唇に当てる」ことなどできないのです。…本当に「上の歯を下唇に当てることはできない」のかどうか、隣の人と確かめてみてください。」

この後、学生たちは、徐々に、自分たちが勘違いしていたことに気づき始めたのである。そこで、答えを明かすことにした。

「そうです、人は「上の歯を下唇に当てることはできない」のです。でも、「上の歯に下唇を当て

ることはできる」のです。ですから、‘F’の音を出せるように指導する場合には、「上の歯に、下唇を軽く当て、息を強く吐く」といった表現を使うべきではないでしょうか。」

学生たちは頷いた。さらに筆者は話を続けた。

「せっかく間違った思い込みから解放されたのですから、ここで、‘F’を発音してみましょう。唾が前の列に飛ぶぐらいの強い息で発音してみましょう。唾が飛んでも前の人はきっと許してくれますから。」

そう言うと、学生たちは大声で笑った。さらに続けて、「もう一度笑ってくれますか。今度は、‘Loud Laughter’ではなくて‘Smile’で。できればシンクロナイズド・スイミングの選手のように」と言うと、その指示に従って、哄笑の代りに微笑を作った。そこで、すかさず「そのまま、そのまま。動かさないで。そのまま、そのまま」と言って、互いの口の格好を確認させた。学生たちは、自分たちが、笑顔になれば、あるいは微笑を作れば、口は自然に‘F’の口になることが分かったのである。この後、さらに話を続けた。

「筆者のように、日本で生まれ、日本で育ち、中学校で初めて英語を習う者にとっては、‘F’の音はそれまで一度も出したことのない音です。初めて習うのですから、時間をかけて丁寧に説明してもらわないと分からないのです。また、たとえ頭で理解できても思い通りに口は動いてくれないのです。しかし、「笑顔」は皆が作れます。ことばで正確に説明するだけでなく、皆が体感できるように工夫を凝らすこともそれに劣らず大切なのです。そうではないでしょうか。」

### Ⅲ

「皆さんは、‘W’で始まる単語をかなり書けると思います。ノートに五つの名詞を書いてください。ただし、その中に、末尾に‘s’が付かない複数名詞を一つ含めてください。まず、各人が自分のノートに書いてみてください。その後で、隣に座っている人が書いたものと比べてみてください。」

学生たちは、それぞれ自分のノートに単語を書き、その後、互いに見せ合った。そこで、学生たちが書いた単語の中から次の五つを選び板書を行った。

1. Wake 2. West 3. Wind 4. Window
5. Women

板書の後、「それでは、一度、コーラス・リーディングをやってみましょう。大きな声でお願いします」と言うと、学生たちは指示通りに声を出した。さすがに大学生である。カタカナを読むように発音する学生は一人もいなかった。ほぼ全員、1.~5.の単語をきれいに発音した。

次に、「Woman」を加えて、1.~6.までの単語をコーラス・リーディングするよう指示した。

1. Wake 2. West 3. Wind 4. Window
5. Women 6. Woman

先ほどと同じように、きれいに発音していたのだが、6番目の「Woman」だけは異質であった。それで、再度、1.~6.を繰り返すように指示を出した。しかし、学生たちはその音の違いに気づいていない様子であった。そこで、次のように言った。

「1.~5.までの単語はきれいに発音されているのですが、6番目の「Woman」の発音だけは気になります。1.~6.をあと3回繰り返してください。」

学生たちはその指示にしたがって、六つの単語を三度繰り返したが、結果はほとんど変わらなかった。そこで、次のように言った。

「「Woman」を発音する際の/w/の音だけが、他の五つの単語を発音するときの/w/の音とは違うのです。どう違うのでしょうか。隣の人と一緒に考えてみてください。」

学生たちは互いに1.~6.の単語を発音しながら、その違いについて話し合っていた。やがて、幾人かが気づき始めた。

「気づいた人がいるようですね。そのとおりです。先ほどのコーラス・リーディングのとき、1.~5.の単語に関しては標準的な英語の発音だったのですが、6番目の「Woman」だけは、カタカナの「ウーマン」の発音になっていたのです。だから、6.だけが異質に聞えたのです。では、どうすれば、カタカナの「ウーマン」ではなく、英語の「Woman」の音に近づけることができるのでしょうか。

皆さんはすでに、1.~5.の単語をきれいに発音できるので、そのときの「唇の形」、「喉の状態」、「息の速さ」を意識すれば、「Woman」の音を出せるはずです。カタカナの「ウ」の音を出すときのようにではなく、1.~5.の単語を発音するときのように、「唇を前に突き出し」「喉の奥を自然に広げて」「息を速く出す」と、「Woman」の音を出せるようになります。この三つを意識して、「Woman」を発音してみましょう。」

学生たちは、それらを意識し、1.~6.の単語を繰り返し発音している間に、「Woman」の/w/の音を出す感覚を掴むことができたのである。この後、発音記号を調べるように指示した。学生たちは辞書を見て、改めて「Woman」の発音が/úmán/ではなく、/wúmán/であることに気づいたのである。

## おわりに

2009年から2017年までの9年間、新入生を対象に、発音に関わる三つの事項—1. 口の動き 2. 'F'の発音 3. 'Woman'の発音—について質問し、その後、彼らに答えを示した。そして、彼らの反応を基にこの小論文を書いた。貴重なデータを提供してくれた約630名の学生たちに感謝したい。

## 〈注〉

- 1) 毎年、同じ内容の質問を口頭で行い、同じ内容の答えを口頭あるいは板書で示してきたのだが、一言一句同じであったわけではないことをお断りしておく。
- 2) 学習指導要領改訂に伴い、2020年から、小学校第5学年及び第6学年で、英語は教科として教えられることになる。そのことを考慮すると、将来、小学校教諭を目指している学生も、発音に関わるこれら三つの事項を是非知っておいてもらいたい。
- 3) 口の動きについて熟知している医療関係者、声楽家、あるいは、口の動きに非常に興味を持っている極端な人を除くと、ほとんどの人は、「口は上下に動く」と思い込んでいる。それは勘違いである。